

“安全な介護発”・今高齢者施設がすべきこととは？

—「職員から入所者多数に感染」は絶対避ける—

■「高齢者施設の職員感染者第1号！ ●●県の施設」

○月×日の朝刊に次のような記事が掲載されました。「特養ホーム職員の感染が判明、既に利用者5名が感染し1名は重篤」と。記事によると20代職員のAさんは、発熱やだるさを訴えて病院を2度受診し、その後の検査で新型コロナウイルス感染が確認されました。施設ではA職員と同フロアの利用者20名についてウイルス検査を実施したところ、既に5名が感染し、1名は重篤な状態であることが判明しました。

施設長は「施設の高齢者は重度化するリスクが高いため、家族の面会も禁止して対策を取っていたが、職員の感染は防げなかった」と語りました。A職員は記者の取材に対して、「県内で感染者が発生した以降も、居酒屋やカラオケなどに頻繁に出入りしていたので、どこで感染したのかは分からない」と語りました。

*（本記事はフィクションであり事実ではありません）

新型コロナウイルスの脅威は特徴的症狀がないこと

■厄介な軽度発症者の感染

新型コロナウイルスは、市中感染の段階に入りました。健康な人が感染しても即生命にかかわる感染症ではありませんが、基礎疾患を持つ人と高齢者には脅威となります。この点はインフルエンザと変わりませんが、インフルエンザと異なるのは特徴的な自覚症状が出にくいことです。

インフルエンザに感染すれば、高熱と節々の痛みなど極めて特徴的な自覚症状が出ることにより、すぐに受診し周囲との接触を断つことができます。しかし、新型コロナウイルスはインフルエンザと異なり発症者に特徴的な自覚症状が出ないため、感染・発症に気付かず、周囲の多数の人に感染させる可能性が高いのです。介護職員は利用者と身体を密着させて介護をしますから（極めて濃厚な接触）、多数の感染は避けられません。ですから、上記のフィクションの記事のように、職員の感染が判明した時には既に多数の入所者に感染させているという事態も容易に考えられるのです。

■高齢者施設で最も避けたい事態とは？

今後も、高齢者施設の職員にも新型コロナウイルスの感染者が出る可能性が考えられます。前述のように、症状が軽度で気付くのが遅ければ、職員の感染判明時に利用者に多数の感染者が出ることも止むを得ません。

しかし、高齢者介護のプロである職員が自らの感染対策を怠っていたのでは、社会から批判や家族もからも非難を受けることでしょう。高齢者施設ですべき対策は、家族の面会を禁じるのではなく、職員が自らの感染を防ぐことです。職員に次のような感染防止対策を徹底させることが、施設の重要課題となるのではないのでしょうか。



■職員自らの感染防止対策

- ①感染機会を減らすために次のような場所への出入りを極力避ける。
 - ・観光地の室内施設 ・ホテルの飲食施設 ・外国人旅行者の多い量販店など ・屋内遊技場 ・居酒屋やカラオケ ・乗降客が多い駅の喫煙室や待合室 ・病院や医院の待合室 ・新幹線、特急、長距離バス
- ②体内侵入を防ぐために衛生行動を徹底する（感染に早く気づく）
 - ・手洗い（洗顔）、うがい ・マスクの着用 ・水分摂取やマスクによって上気道を湿潤な状態に保つ
 - ・感染の早期の自覚※と診断依頼 ※発熱と同時に「咳とは異なる息苦しさ」を感じたら受診して検査を申し出る

発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
マーケット開発部 市場開発室
担当 堀江・高橋 TEL 03-5789-6456

担当課・支社 代理店

株式会社福祉施設共済会
東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSTビル
電話03-5466-0881 FAX03-5466-0882